

保有する病棟と機能区分の選択状況(2016(平成28)年7月1日時点の機能)

病床の機能区分	病棟名
高度急性期	
急性期	3階一般病棟
回復期	4階回復期病棟
慢性期	
休棟中、休棟後の再開の予定なし、休棟・廃止予定、無回答等	

保有する病棟と機能区分の選択状況(6年が経過した日における病床の機能の予定)

病床の機能区分	病棟名
高度急性期	
急性期	3階一般病棟
回復期	4階回復期病棟
慢性期	
休棟中、休棟後の再開の予定なし、休棟・廃止予定、無回答等	

(留意事項)

○公表している項目の中には、診療報酬制度上で定められた診療行為の定義に従って集計した項目が多くありますが、その項目の解説については、医療関係者以外の方にも分かりやすい表現とする趣旨で記載しているため、診療報酬制度上の定義を詳細には記載していない場合があります。

○また、公表している項目の中には、個人情報保護の観点から、1以上10未満の値を「\*」で隠匿している項目があります。

○「未確認」とされている情報は、未報告や報告内容の不整合があったことから確認が必要な情報になります。

○施設全体の欄では、内容に「\*」「未確認」とされている情報が含まれている場合に「未」を記載しています。

○「-」とされている情報は、任意の報告項目や報告が不要となる場合、留意すべき報告対象期間について特段の情報がない場合に記載されています。

基本情報(職員配置、届出の状況など)

患者の入退院等の状況

医療内容に関する情報(手術、リハビリテーションの実施状況など)

・責任の状況

・診療科

・入院基本料・特定入院料及び届出病床数

・算定する入院料本用・特需入院料別の状況

・DPC医療機関別の種類

・救命告示看板、二次救命医療施設、三次救命医療施設の表示・認定の有無

・診療報酬の届出の有無

・登録医の登録の届出状況

・退院料の部門の割当状況

・医療報酬の合算

・過去1年間の間に休棟の延長・早廻しがあった場

・手術の状況

・がん・脳卒中・心疾患等・分娩・精神疾患への対応状況

・重症患者への対応状況

・救急医療の実施状況

・急性対応の実施状況

・全般管理の状況

・リハビリテーションの実施状況

・長期滞在患者の入室状況

・重度の障害児等の受け入れ状況

・医療報酬の実施状況

## ◆基本情報（職員配置、届出の状況など）

病床の状況

			(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復病棟 回復期
一般病床	許可病床	上記のうち医療法上の経過措置に該当する病床数	医療機関の病床(ベッド)は、法律(医療法)の許可を得た上で運営することとされており、許可を受けた病床のうち、過去に申請した患者を受け入れた病床を稼働病床数として示しています。	48床	48床	0床
	稼働病床		なお、病室の広さは患者一人あたり6.4平方メートル以上と定められていますが、平成13年3月1日以前に許可を受けた病床は、この基準を満たしていない場合があります。	0床	0床	0床
療養病床	許可病床	うち医療療養病床 うち介護療養病床	また医療法では、病床のうち、主として長期にわたり療養を必要とする患者が入院するための病床を療養病床と呼んでいます。	48床	48床	0床
	稼働病床	うち医療療養病床 うち介護療養病床	療養病床の中には、医療保険を適用した医療サービスを提供するのではなく、介護保険を適用した介護サービスを提供する病床もあります。前者は医療療養病床、後者は介護療養病床と呼んでいます。	60床	0床	60床
				60床	0床	60床
				0床	0床	0床
				60床	0床	60床
				0床	0床	0床

## 診療科

			(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復病棟 回復期
主とする診療科	複数ある場合、上位3つ		主とする診療科は、どのより患者を診療している診療科を指します。5割を超える診療科がない場合は、上位3つの診療科を示しています。	-	-	

### 入院基本料・特定入院料及び届出病床数

		無疾主 体	有病主 体	高齡者 ・障害者	精神疾 患者	病院 ・施設入 居者	急性期 ・回復期
算定する入院基本料・特定入院料							
	届出床数						
病室単位の特定入院料							
	届出床数						
病室単位の特定入院料							
	届出床数						
介護療養病床において療養型介護療養施設サービス費等の届出あり							

#### 算定する入院基本料・特定入院料等の状況

(項目の解説)		施設全体	3院・一般病 棟	4回回復期 病棟	急性期 病棟	回復期 病棟
一般病棟7例1人院基本料		入院基本料・特定入院料には、入院料の基本料金に該当する点検料が含まれています。点検料は、患者の状態や医療行為や薬の費用などを勘案して算出している場合もあります。病床を利用する患者の状態や職業の配慮状況に応じて入院1日あたりの点数が設定されていて、様々な区分があります。	0件	0件	0件	0件
一般病棟10例1人院基本料			68件	0件	0件	0件
一般病棟11例1人院基本料			0件	0件	0件	0件
一般病棟15例1人院基本料			0件	0件	0件	0件
一般病棟特別1人院基本料			0件	0件	0件	0件
一般病棟入院基本料			0件	0件	0件	0件
癡瘍病棟入院基本料1			0件	0件	0件	0件
癡瘍病棟入院基本料2			0件	0件	0件	0件
癡瘍病棟特別1人院基本料			0件	0件	0件	0件
介護看護病棟における標準型介護療養施設サービス費等			0件	0件	0件	0件
特定機能病棟10例1人院基本料			0件	0件	0件	0件
特定機能病棟21例1人院基本料			0件	0件	0件	0件
専門病院7例1人院基本料			0件	0件	0件	0件
専門病院10例1人院基本料			0件	0件	0件	0件
専門病院13例1人院基本料			0件	0件	0件	0件
障害者施設8例7対1人院基本料			0件	0件	0件	0件
障害者施設9例7対1人院基本料			0件	0件	0件	0件
障害者施設等7対1人院基本料			0件	0件	0件	0件
障害者施設等8対1人院基本料			0件	0件	0件	0件
救命急救入院料			0件	0件	0件	0件
救命急救入院料2			0件	0件	0件	0件
救命急救入院料3			0件	0件	0件	0件
救命急救入院料4			0件	0件	0件	0件
特定集中治療室管理料1			0件	0件	0件	0件
特定集中治療室管理料2			0件	0件	0件	0件
特定集中治療室管理料3			0件	0件	0件	0件
特定集中治療室管理料4			0件	0件	0件	0件
ハイアユニット入院医療管理料1			0件	0件	0件	0件
ハイアユニット入院医療管理料2			0件	0件	0件	0件
脳卒中ケアユニット入院医療管理料			0件	0件	0件	0件
小児多発疾患治療監査管理料			0件	0件	0件	0件
新生児特定集中治療室管理料1			0件	0件	0件	0件
新生児特定集中治療室管理料2			0件	0件	0件	0件
聯合受産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)			0件	0件	0件	0件
聯合受産期特定集中治療室管理料(新生児)			0件	0件	0件	0件
区域連携特定集中治療室管理料			0件	0件	0件	0件
特殊な入院看護管理料			0件	0件	0件	0件
小兒入院看護管理料1			0件	0件	0件	0件
小兒入院看護管理料2			0件	0件	0件	0件
小兒入院看護管理料3			0件	0件	0件	0件
小兒入院看護管理料4			0件	0件	0件	0件
小兒入院看護管理料5			0件	0件	0件	0件
回復期リハビリテーション病棟入院料1			90件	0件	90件	0件
回復期リハビリテーション病棟入院料2			0件	0件	0件	0件
回復期リハビリテーション病棟入院料3			0件	0件	0件	0件
地域包括ケア入院看護料1			0件	0件	0件	0件
地域包括ケア入院看護料2			0件	0件	0件	0件
地域包括ケア入院看護管理料1			32件	32件	0件	0件
地域包括ケア入院看護管理料2			0件	0件	0件	0件
特殊な患病看入院料1			0件	0件	0件	0件
特殊な患病看入院料2			0件	0件	0件	0件
緩和ケア入院料1			0件	0件	0件	0件
緩和ケア入院料2			0件	0件	0件	0件
緩和ケア入院料3			0件	0件	0件	0件
一定の精神疾患入院料1			0件	0件	0件	0件
一定の精神疾患入院料1(地域包括ケア入院看護管理料1)			0件	0件	0件	0件
特定一般病棟入院料1			0件	0件	0件	0件
特定一般病棟入院料2			0件	0件	0件	0件
特定一般病棟入院料(地域包括ケア入院看護管理料2)			0件	0件	0件	0件
特定一般病棟入院料(被徴病種入院基本料1の例により算定)			0件	0件	0件	0件
短期滞在手術等基本料1			0件	0件	0件	0件
短期滞在手術等基本料3			14件	14件	0件	0件

DPC医療機関群の種類

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復期 病棟 回復期
DPC医療機関群の種類	DPC制度とは、急性期の人院医療を担う医療機関において、患者に対する入院日数に応じて1日あたり一定額の医療費用を算定する制度です。この制度は、各病院の診療特徴や患者の特性を示すもので、特性や疾患等に応じて日本の医療費の設定が異なります。I群が大学病院本院、II群が大学病院本院に準じる病院、III群がそれ以外の病院であることをDPCではない			

救急告示病院、二次救急医療施設、三次救急医療施設の告示・認定の有無

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復期 病棟 回復期
救急告示病院の告示の有無	救急告示病院とは、車椅子や電動車椅子による救急患者を救急搬送する医療機関として、都道府県知事が認めた病院です。また、救急患者のうち、入院医療が必要な重症な救急患者を休日や夜間に受け入れる医療機関を二次救急医療施設といいます。さらに、二次救急では対応できない重症な救急患者を受け入れる体制で受け入れる医療機関を三次救急医療施設と呼びます。	無		
二次救急医療施設の認定の有無		無		
三次救急医療施設の認定の有無		無		

診療報酬の届出の有無

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復期 病棟 回復期
総合入院体制加算の届出の有無	総合入院体制加算とは、十分な人員配置および設備等を備え総合的かつ専門的な急性期医療を24時間提供できる体制を確保している病院のことです。	届出無し		
在宅療養支援病院の届出の有無	在宅療養支援病院とは、24時間住診が可能な体制を確保している病院のことです。また、在宅療養支援病院の場合は、在宅療養が可能な体制を確保している病院のことです。	有		
在宅療養後方支援病院の届出の有無	在宅療養後方支援病院とは、在宅療養を受けていた患者の急変時に備え、緊急入院を受け入れるための病床を確保している病院です。	無		

## 職員数の状況

(項目の解説)

			施設全体	3階一般病棟	4階回復期病棟
看護師	常勤	職員数は、医療機関内の各部門に配置されている職員数です。	54人	25人	21人
	非常勤		1.8人	0.0人	0.8人
准看護師	常勤	(参考)理学療法士	5人	0人	3人
	非常勤	座る、立つ、歩くなどの基本動作ができるよう、身体の基本的機能の回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。理学療法士は、身体の筋肉や骨格などの機能を用いて、身体の運動機能を回復させる治療法を行ったり、温熱、光線、電気などを用いて、痛みや拘離の改善を図る物理療法治を行ったりします。	1.5人	0.0人	0.0人
看護補助者	常勤		18人	9人	9人
	非常勤		1.1人	0.7人	0.4人
助産師	常勤		0人	0人	0人
	非常勤		0.0人	0.0人	0.0人
理学療法士	常勤	(参考)作業療法士	34人	11人	20人
	非常勤	指を動かす、食事をするなど日常生活を送る上で必要な諸機能の回復・維持をサポートするリハビリテーションの専門職です。作業療法の手段には、土木、陶芸、園芸、織物、料理、手芸、絵画、音楽などがあり、個人あるいは集団で行います。	0.0人	0.0人	0.0人
作業療法士	常勤		20人	6人	14人
	非常勤		0.0人	0.0人	0.0人
言語聴覚士	常勤	(参考)言語聴覚士	10人	3人	8人
	非常勤	言語や音声が出ていくなどのコミュニケーションや、食べ物を飲み込むなどの能力に問題が生じている場合に、その回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。障害が起こっているメカニズムを明らかにし、対処法を探るため検査、評価し、必要に応じて訓練やアドバイスを行います。	0.0人	0.0人	0.0人
薬剤師	常勤		2人	0人	0人
	非常勤		0.0人	0.0人	0.0人
臨床工学技士	常勤		0人	0人	0人
	非常勤		0.0人	0.0人	0.0人

			(項目の解説)		
			施設全体	病棟以外の部門	
			手術室	外来部門	その他
看護師	常勤	職員数は、医療機関内の各部門に配置されている職員数です。	0人	6人	2人
	非常勤		0.0人	0.5人	0.5人
准看護師	常勤	(参考)理学療法士	0人	2人	0人
	非常勤	座る、立つ、歩くなどの基本動作ができるように、身体の基本的機能の回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。理学療法士は、筋肉や骨格の機能を改善する運動療法を行ったり、温熱、光線、電気などを用いて、痛みや炎症の改善を図る物理療法を行ったりします。	0.0人	1.0人	0.5人
看護補助者	常勤		0人	0人	0人
	非常勤		0.0人	0.0人	0.0人
助産師	常勤		0人	0人	0人
	非常勤		0.0人	0.0人	0.0人
理学療法士	常勤	(参考)作業療法士	0人	3人	0人
	非常勤	持を持つかす、食事をするなど日常生活を送る上で必要な機能の回復・維持をサポートするリハビリテーションの専門職です。作業療法の手段には、土木、陶芸、園芸、織物、料理、手芸、絵画、音楽などがあり、個人あるいは集団で行います。	0.0人	0.0人	0.0人
作業療法士	常勤		0人	0人	0人
	非常勤		0.0人	0.0人	0.0人
言語聴覚士	常勤	(参考)看護師	0人	1人	0人
	非常勤	元気でいる、人が出していくなどのコミュニケーションや、食事などをすくうなどの能力に問題が生じている場合に、その回復をサポートするリハビリテーションの専門職です。障害が起こっているメカニズムを明らかにして、対処法を探るために検査、評価し、必要に応じて訓練やアドバイスを行います。	0.0人	0.0人	0.0人
薬剤師	常勤		0人	2人	0人
	非常勤		0.0人	0.0人	0.0人
臨床工学科技士	常勤		0人	0人	0人
	非常勤		0.0人	0.0人	0.0人

## 退院調整部門の設置状況

退院調整部門の有無		(項目の解説)		施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復期 病棟 回復期
		専従	兼任			
退院調整部門に勤務する人数	医師	専従	兼任	有		
	看護職員	専従	兼任	0人		
	MSW	専従	兼任	0.0人		
	事務員	専従	兼任	1人		
	その他	専従	兼任	0.0人		
	MSWのうち社会福祉士	専従	兼任	5人		
		専従	兼任	0.0人		
		専従	兼任	0人		
		専従	兼任	0.0人		

## 医療機器の台数

		(項目の解説)		施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復期 病棟 回復期
		CT	MRI			
CT	スマ	64列以上	CTは、X線(放射線)を用いて、身体の断面を撮影する装置です。列の数が多いほど、同じ範囲をより短時間、より細かく撮影することができます。確は医療機器が保有する台数です。	0台		
	スラル	16列以上64列未満		0台		
	イデ	16列未満		1台		
MRI	その他			0台		
		3T以上	MRIは、主に磁気を利用して、身体の断面を撮影する装置です。T(テスラ)は、磁気の強さを表す単位で、値が大きいほど高品質の画像が得られます。確は医療機器が保有する台数です。	0台		
		1.5T以上3T未満		0台		
		1.5T未満		0台		

その他	血管連続撮影装置	血管連続撮影装置は、X線では映らない、血管の状態を撮影するための装置です。当社は医療機器が保有する台数です。	0台
	SPECT	SPECTは、特殊な薬剤を注射したあとに撮影すること、体内の薬剤の分布を調べる装置で、どこの臓器や部位で薬剤が最も多くあるのかを測定します。当社は医療機器が保有する台数です。	0台
	PET	PETCTは、診断の精度を向上させるためにPETとCTを組み合った装置です。当社は医療機器が保有する台数です。	0台
	PETCT	PETCTは、診断の精度を向上させるためにPETとCTを組み合った装置です。当社は医療機器が保有する台数です。	0台
	PETMRI	PETMRIは、PETとMRIを組み合わせた装置で、どちらかでも組み合った装置です。当社は医療機器が保有する台数です。	0台
	ガンマナイフ	ガンマナイフは、脳に精密に放射線を集中照射する装置です。当社は医療機器が保有する台数です。	0台
	サイバーナイフ	サイバーナイフは、脳に精密に放射線を集中照射する装置で集中照射する装置です。当社は医療機器が保有する台数です。	0台
	強度変調放射線治療器	強度変調放射線治療器は、腫瘍に精確に放射線を照射する装置です。当社は医療機器が保有する台数です。	0台
	追跡操作式密封小線源治療装置	追跡操作式密封小線源治療装置は、体の内側から放射線を照射する装置を持つ装置です。当社は医療機器が保有する台数です。	0台
	内視鏡手術用支援機器(ダヴィンチ)	内視鏡手術用支援機器(ダヴィンチ)は、内視鏡カメラとドロボットアームを操作して手術を行う手術支援ロボットです。当社は医療機器が保有する台数です。	0台

[TOPへ戻る](#)

過去1年間に病様の再編・見直しがあった場合の報告対象期間

		(項目の解説)	施設全体	3周～院内 急性期	4周回復期 病様回復期
過去1年間に病様の再編・見直しがあった場合の報告対象期間		病様の再編・見直しがあった場合の報告対象期間は、平成27年7月1日～平成28年6月30日の期間内に病様の再編・見直しがあった場合、過去1年間分の状況を報告することが困難な場合、平成28年7月1日時点の病様単位で報告が可能な過去の期間です。		-	-

[TOPへ戻る](#)

◆患者の入退院等の状況

入院患者の状況(年間)

年 間	(項目の解説)	施設全 体	3階一般病 棟		4階回復病 棟	
			急性期	回復期	急性期	回復期
新規入院患者数(年間)	1年間の入院患者の状況は、平成27年7月から平成28年6月までに入院、退院した患者数を示す項目です。	1,048人	726人	322人	867人	322人
	うち予定入院の患者・院内の他病棟からの転換患者				545人	322人
	うち救急医療入院の予定外入院の患者	52人	52人	0人	129人	0人
	うち救急医療入院以外の予定外入院の患者	129人	129人	0人	16,313人	21,044人
在院患者延べ数(年間)		38,207人	16,313人	21,044人		
退院患者数(年間)		1,049人	727人	322人		

入院患者の状況(月間／入院前の場所・退院先の場所の状況)

1ヶ月 間	(項目の解説)	施設全 体	3階一般病 棟		4階回復病 棟	
			急性期	回復期	急性期	回復期
新規入院患者数(1ヶ月間)	1ヶ月間の入院患者の状況は、平成28年6月に入院を受け入れた患者の入院前の場所、退院した患者の退院先の場所を示す項目です。	321人	62人	62人	18人	18人
入院前の場所	うち院内の他病棟からの転換	18人	18人	18人	16人	16人
	うち家庭からの入院	59人	48人	48人	0人	0人
	うち他の施設・診療所からの転院	0人	0人	0人	0人	0人
	うち介護施設・福祉施設からの入院	0人	0人	0人	0人	0人
	うち院内の出生	0人	0人	0人	0人	0人
	その他	89人	61人	28人	18人	18人
退院患者数(1ヶ月間)		58人	35人	20人	6人	3人
退院先の場所	うち院内の他病棟へ転換	2人	0人	0人	0人	0人
	うち家庭への転院・診療所への転院	5人	2人	3人	5人	3人
	うち他の施設・診療所への転院	0人	0人	0人	0人	0人
	うち介護老人保健施設に入所	68人	42人	26人	0人	0人
	うち介護老人福祉施設に入所	0人	0人	0人	0人	0人
	うち社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所	0人	0人	0人	0人	0人
	うち終了(死亡・退院等)	0人	0人	0人	0人	0人
	その他	0人	0人	0人	0人	0人

退院後に在宅医療を必要とする患者の状況

1ヶ月 間	(項目の解説)	施設全 体	3階一般病 棟		4階回復病 棟	
			急性期	回復期	急性期	回復期
退院患者数(1ヶ月間)	退院後に在宅医療を必要とする患者の状況は、平成28年6月の1か月間に退院した患者に対する在宅医療の提供の必要性に関する項目です。	71人	45人	28人	0人	0人
	退院後1か月以内に自宅が在宅医療を提供する予定の患者数	0人	0人	0人	3人	2人
	退院後1か月以内に他施設が在宅医療を提供する予定の患者数	3人	1人	2人	68人	42人
	退院後1か月以内に在宅医療を必要としない患者(死亡・退院等)	68人	42人	26人	0人	0人
	退院後1か月以内に在宅医療の実態予定が不明の患者	0人	0人	0人	0人	0人

**看取りを行った患者数**

※在宅養護支援病院の届出を行っている病院のみが報告する事項です。

		(項目の解説)		
		施設全 体	3階一般病 棟 急性期	4階回復期 病棟 回復期
直近1年間で在宅療養を担当した患者のうち、医療機関以外での看取り数(年間)		看取りとは、患者の死前まで見守り臨終に付きそうことといいます。また、平成27年7月から8月までの1年間に在宅療養を担当し、看取りまで支援した患者について、その看取りを行った場所や数を示しています。	1人	
うち自宅での看取り数			1人	
うち通院医療機関での看取り数			0人	
直近1年間で在宅療養を担当した患者のうち、医療機関での看取り数(年間)			0人	
うち通院医療機関での看取り数			0人	
うち通院医療機関以外での看取り数			0人	

[TOPへ戻る](#)

◆医療内容に関する情報（手術、リハビリテーションの実施状況など）

手術の状況

		(項目の解説)		
手術総数		施設全体	3箇一般病棟 急性期	4箇回復期 回復期
	皮膚・皮下組織	15件	15件	0件
	筋骨格系・四肢・体幹	*	*	0件
	神経系・頭蓋	0件	0件	0件
	眼	0件	0件	0件
	耳鼻咽喉	0件	0件	0件
	頭頸・口腔・頸部	0件	0件	0件
	胸部	0件	0件	0件
	心・肺管	0件	0件	0件
	腹部	14件	14件	0件
	尿路系・副腎	0件	0件	0件
	性器	0件	0件	0件
	歯科	0件	0件	0件
全身麻酔の手術件数		全身麻酔の手術の状況は、全身麻酔を用いて手術を受けた患者数と、手術の対象となった臓器別の患者数です。		
	皮膚・皮下組織	0件	0件	0件
	筋骨格系・四肢・体幹	0件	0件	0件
	神経系・頭蓋	0件	0件	0件
	眼	0件	0件	0件
	耳鼻咽喉	0件	0件	0件
	頭頸・口腔・頸部	0件	0件	0件
	胸部	0件	0件	0件
	心・肺管	0件	0件	0件
	腹部	0件	0件	0件
	尿路系・副腎	0件	0件	0件
	性器	0件	0件	0件
	歯科	0件	0件	0件
人工心肺を用いた手術		人工心肺を用いた手術とは、心臓手術などの際に心臓と肺の機能を代行する装置を用いて行う手術です。値はこの手術で使用された台数です。		
胸腔鏡下手術		胸腔鏡下手術とは、胸郭を切り開くことせず、胸郭に開けた小さな穴から、胸部用の内視鏡などの器具を入れて行う手術で「きょくきょうかいかいじゅつ」と読みます。値はこの手術で使用された台数です。		
腹腔鏡下手術		腹腔鏡下手術とは、腹部を切り開くことはせず、腹郭に開けた小さな穴から、腹部用の内視鏡などの器具を入れて行う手術で「ふくろうきょうかいかいじゅつ」と読みます。値はこの手術で使用された台数です。		

がん、脳卒中、心筋梗塞、分娩、精神医療への対応状況

(がん)

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復病棟 回復期
悪性腫瘍手術	悪性腫瘍手術とは、がんを取ったための手術です。癌は手術を行ったときに数です。	0件	0件	0件
病理組織標本作製	病理とは、おのこの身体から採取した細胞や組織等を観察し、病気の確定診断を行うといいます。病気の早期発見や治療方針の選択、治療効果の判定などにも立ちます。	* ※	*	0件
術中迅速病理組織標本作製	術中迅速病理組織標本作製とは、必須の検査の結果を待ちません。直ちに迅速診断により、病理組織の性質を確認します。	0件	0件	0件
放射線治療	放射線治療とは、がん細胞を殺す放射線を当てる治療のことです。がん細胞を殺す放射線は癌です。	0件	0件	0件
化学療法	化学療法は、抗がん剤によりがんを目立たせ、小さくしたりする治療です。抗がん剤とは、絶対用量が定めた日本薬事高分子類に「はつきりした薬用箋」に記載されている医薬品のことです。	* ※	0件	*
がん患者指導管理料1及び2	がん患者指導管理料は、がんの患者が、診断結果や治療方針などを理解するための指導や相談を行った場合に支給される料金です。	0件	0件	0件
抗悪性腫瘍剤局所持続注入	抗悪性腫瘍剤局所持続注入は、がんの患者に対し、発症後やかに薬剤を投与して血栓を溶かす治療を行ったことを示す項目です。	0件	0件	0件
肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入	肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入は、がんの患者に、動脈の血流を遮断する物質を注入することで肝臓のがんを殺す方法です。確はこの治療を行った患者数です。	0件	0件	0件

(脳卒中)

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復病棟 回復期
超急性期脳卒中加算	超急性期脳卒中加算は、脳梗塞の患者に対し、発症後やかに薬剤を投与して血栓を溶かす治療を行ったことを示す項目です。	0件	0件	0件
脳血管内手術	脳血管内手術は、脳動脈瘤等の患者に対し、頭蓋骨を切り開いて脳の血管の狭窄部をカテーテル(細い管)や医療器具等で拡張する手術です。確はこの治療を行った患者数です。	0件	0件	0件

(心筋梗塞)

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復病棟 回復期
經皮的冠動脈形成術	經皮的冠動脈形成術は、心臓や心臓血管等の患者に対し、胸部を切開し胸膜を開き、カテーテル(細い管)や医療器具等で冠動脈を拡張する手術です。確はこの治療を行った患者数です。	0件	0件	0件

(分娩)

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復病棟 回復期
分娩件数(正常分娩、帝王切開を含む、死産を除く)	分娩件数は、分娩を行った患者数です。	0件	0件	0件

(精神医療)

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復病棟 回復期
入院精神疾療法(Ⅰ)	入院精神疾療法は、精神疾患の患者に対し、治療計画に基づいて患者の精神面に対して施す治療です。確はこの治療を行った患者数です。	0件	0件	0件
精神利エゾンチーム加算	精神利エゾンチーム加算は、精神疾患の患者に対し、精神科医や専門の看護師等が中心し、多職種チームとして診療を行なう治療法です。確はこの治療を行った患者数です。	0件	0件	0件
認知症ケア加算1	認知症ケア加算は、身体虚弱の治療が必要とする認知症の患者に対し、精神の看護師等や専門知識を有する多職種が適切に対応を行っていることを示す項目です。確はこうした対応を行った患者数です。	0件	0件	0件
認知症ケア加算2	認知症ケア加算は、身体虚弱の治療が必要とする認知症の患者に対し、精神の看護師等や専門知識を有する多職種が適切に対応を行っていることを示す項目です。確はこうした対応を行った患者数です。	0件	0件	0件
精神疾患療法治定制加算1及び2	精神疾患療法治定制加算は、身体虚弱の患者に対する精神疾患患者の受け入れいや、救急搬送された精神疾患を行なう患者の診療を行っていることを示す項目です。確はこうした診療を行った患者数です。	0件	0件	0件
精神疾患診断治療初回加算(救命救急入院料)	精神疾患診断治療初回加算は、身体虚弱の患者に対する精神疾患患者に対し、精神疾患にかかる診断治療等を行っていることを示す項目です。確はこうした診療を行った患者数です。	0件	0件	0件

**重症患者への対応状況**

(項目の解説)				
	施設全体	3院一般病棟 急性期	4院回復期 病棟 回復期	
ハイリスク分娩管理加算	ハイリスク分娩管理加算は、母体や胎児が分娩時に危険な状態に陥るリスクがある場合に付与。帝王切開などの緊急剖腹産は複数回にわたる分娩管理を必要とする場合など表示する項目です。値は「3院一般病棟回復期」で示す項目です。	0件	0件	0件
ハイリスク妊娠婦共同管理料(Ⅱ)	ハイリスク妊娠婦共同管理料(Ⅱ)は、上記のような妊娠婦にハイリスクがある場合に付与。値は「3院一般病棟回復期」で示す項目です。値は、他院から患者の紹介を受け、総介元の医師と共同して自院で分娩管理を行ったを表す項目です。	0件	0件	0件
救急搬送診療料	救急搬送診療料は、患者を救急車等で医療機関に搬送する際に発生する料金を示す項目です。値はこのような搬送中の診療を行ったを表す項目です。	0件	0件	0件
観血的肺動脈圧測定	観血的肺動脈圧測定は、急性心筋梗塞など心肺機能が低下した患者に対し、肺動脈内カテーテルを挿入して心筋梗塞を押さえたり肺動脈の血圧を測定する検査です。値は検査を行ったを表す項目です。	0件	0件	0件
持続緩徐式血液透析	持続緩徐式血液透析は、急速に腎臓の機能が低下した急性腎炎や腎盂腎炎、尿路梗阻等の患者に付与。値は緩慢に水や毒素・老廃物を除去して体液調節を行う装置です。値は「施設回復期」で示す項目です。	0件	0件	0件
大動脈バルーンパンピング法	大動脈バルーンパンピング法は、急性心筋梗塞等の患者に対する治療法で、心臓の心筋梗塞部等の部位にカーテール(細い管状の導管器)を心臓に近い大動脈に挿入し、心筋の動きに合わせてバルーンを膨張・収縮させることで心筋の冠動脈への血流を増加させる方法です。値は「施設回復期」で示す項目です。	0件	0件	0件
経皮的心肺蘇生法	経皮的心肺蘇生法は、重篤な心不全等の患者に対して、人工心肺装置で血液循環を維持しながら、心肺機能の回復を図る手段であり、外的的には胸部を叩くことによってガスガバナンスを改善する方法です。値は「施設回復期」で示す項目です。	0件	0件	0件
補助人工心臓・袖込型補助人工心臓	補助人工心臓は、重篤な心不全等の患者に対して人工的に血液循環を行う装置を装着することで、弱った心臓を休ませながら他の臓器の活動を正常化する目的で、袖込型の心臓補助装置で心臓の活動を代行する方法です。値は「施設回復期」で示す項目です。	0件	0件	0件
頭蓋内圧持続測定(3時間を超えた場合)	頭蓋内圧持続測定(3時間を超えた場合)は、頭蓋骨内部に置くことで脳圧の変化を測定する装置です。値は「施設回復期」で示す項目です。	0件	0件	0件
人工心肺	人工心肺は、心臓手術等で心臓の機能が一時的に停止する場合に用いられる方法です。値は「施設回復期」で示す項目です。	0件	0件	0件
血浆交換療法	血浆交換療法は、創症・肝炎・肝不全・膠原病等の患者に対して、患者の血液から病気の原因となる物質が含まれる血漿を引いて、別の血漿を注入する治療法です。値は「施設回復期」で示す項目です。	0件	0件	0件
吸着式血液浄化法	吸着式血液浄化法は、創症・肝炎や肝不全等の患者に対し、血液を吸着槽に通すことで血液中に蓄積した老廃物や毒素を吸着する方法です。値は「施設回復期」で示す項目です。	0件	0件	0件
血球成分除去療法	血球成分除去療法は、溶血性疾患やワロニー病等の自己免疫疾患の患者に対して、血液から自分の細胞を攻撃する自己免疫を除去する治療法です。値は「施設回復期」で示す項目です。	0件	0件	0件

新項目	新項目
13.7%	-
5.0%	-
2.9%	-
0.3%	-
0.0%	-
2.9%	-
15.7%	-
1.2%	-
-	-
0.7%	-
0.0%	-
0.7%	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-

「総合入院料割加算」の提出を行っている場合における、一般病棟用の重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の割合
A得点1点以上の患者割合
A得点2点以上の患者割合
重症度、医療・看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合
A得点3点以上の患者割合
C得点1点以上の患者割合
重症度、医療・看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上、A得点3点以上またはC得点1点以上の患者割合

-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-

## 救急医療の実施状況

		(項目の解説)		
施設全 体		3階一般病 棟	4階回復病 棟	回復期
院内トriage実施料		院内トライアージ実施料は、夜間も休日、深夜に受診した救急患者に適用し、その緊急性度に応じて、診療の先頭順位(院内トライアージ)を行っていることを示す項目です。値は「リバーサル」を除く。	0件	0件 0件
夜間休日救急搬送医学管理料		夜間休日救急搬送医学管理料は、夜間や休日等の救急搬送に対応していることを示す項目です。値は、夜間、休日等に「救急車」や「救急搬送車」等に「第一回緊急搬送料」、「巡回緊急搬送料」、「巡回緊急搬送料等」を支拂った場合に適用される料金を示す。値は、夜間も休日間に搬送された患者のうち、過去6ヶ月以内に精神疾患の受診歴がある患者や、急性薬物中毒歴がある患者等。	0件	0件 0件
精神科疾患者等受入加算		精神科疾患者等受入加算は、精神科疾患の受入を受けた場合に適用される料金を示す。値は、精神科疾患の受入を受けた患者のうち、過去6ヶ月以内に精神疾患の受診歴がある患者や、急性薬物中毒歴がある患者等。	0件	0件 0件
救急医療管理加算1及び2		救急医療管理加算は、意識障害の重症度による料金の異なる緊急入院料に付与されなければならないことを示す項目です。値は「毎日又は夜間」「緊急救命」「救急搬送料等」が示す。	0件	0件 0件
在宅患者緊急入院診療加算		在宅患者緊急入院診療加算は、在宅での治療中に「病状が悪化する」と判断された場合に適用される料金を示す。値は「緊急搬送料等」「緊急入院料」「緊急搬送料等+緊急入院料」が示す。	*	* * *
休日に受診した患者延べ数	うち診療後直ちに入院となった患者延べ数	休日に受診した患者延べ数は、休日(曜日、祝日、年末年始)に受診した患者数で、そのうち診療後直ちに入院が必要となった患者数です。	1人	
夜間・時間外に受診した患者延べ数	うち診療後直ちに入院となった患者延べ数	夜間・時間外に受診した患者延べ数は、夜間・時間外(医療開始時刻を示す診療時間以降の時間(休日を含む))に受診した患者数と、そのうち診療後直ちに入院が必要となつた患者数です。	0人	
	うち診療後直ちに入院となった患者延べ数		0人	

救急車の受入件数	救急車の受入件数は、救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数です。	8件		
救命のための気管内挿管	気管内挿管は、気道確保を行うためのチューブ等を口や鼻から挿入する処置です。他の救命措置として気管内挿管を行った患者数です。	0件	0件	0件
体表面ペーシング法又は食道ペーシング法	体表面・食道ペーシング法は、胸部または食道内に電極をおき、電極を介して心臓を電気刺激する処置です。僅は処置を行った患者数です。	0件	0件	0件
非開胸的心マッサージ	非開胸的心マッサージは、胸骨を叩く等の手術を伴わない、一般的な心臓マッサージを行う処置です。僅は処置を行った患者数です。	0件	0件	0件
カウンターショック	カウンターショックは、心停止した患者に対し、AEDや専門の医療機器等を用いて、心臓に電気ショックを与え、正常な状態に戻す処置です。僅は処置を行った患者数です。	0件	0件	0件
心臓穿刺	心臓穿刺・心臓を壁で覆う心臓穿刺等を刺す。心臓に貯まつた血液を抜き出す。血は心臓から肺に運ばれて肺から排出される。食道圧迫止血チューブ挿入法は、食道静脈瘤からの出血に對し圧迫止血の目的でチューブを挿入する処置です。僅は処置を行った患者数です。	0件	0件	0件
食道圧迫止血チューブ挿入法	食道圧迫止血チューブ挿入法は、食道静脈瘤からの出血に對し圧迫止血の目的でチューブを挿入する処置です。僅は処置を行った患者数です。	0件	0件	0件

## 急性期後の支援、在宅復帰の支援の状況

	(項目の解説)	施設全 体	3周一般病 棟 急性期	4周回復期 病棟 回復期
退院支援加算1	退院支援加算は、患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように、施設間の連携を構築する上で退院支援を実施していることを示す項目です。直は退院支援を行った患者数です。	*　※	*	0件
退院支援加算2		0件	0件	0件
救急・在宅等支援(療養)病床初期加算及び有床診療所一般病床初期加算	救急・在宅等支援(療養)病床初期加算及び有床診療所一般病床初期加算は、急性期の治療を終え、状態があらかじめ安定した患者や、自宅・介護施設等での療養中に突然などにより入院が必要になった患者を対象とするものであります。(ノンホスピタル化支援)直は受け入れ人数です。	19件	19件	0件
地域連携診療計画加算(退院支援加算1)	地域連携診療計画加算は、退院支援加算における退院支援を行つ際の、施院や介護、セカンド事業者等に診療情報を文書で提出する項目と表示されています。直は、診療情報を文書に記入せられた患者数です。	0件	0件	0件
退院時共同指導料2	退院時共同指導料2は、退院時に在宅で療養する患者について、人院している医療機関の医師等が退院後の在宅医療を指導するための指導料です。直は、受け入れた患者数です。患者に指導や説明を行つてることを示す項目です。直は、患者が受け入れた医療機関の指導料を行つた患者数です。	0件	0件	0件
介護支援連携指導料	介護支援連携指導料は、在院中の医療機関と介護支援専門員(ケアマネージャー)が連携し、共同で指導や説明を行つたことを示す項目です。直は、指導や説明を行つた患者数です。	*　※	*	0件
退院時リハビリテーション指導料	退院時リハビリテーション指導料は、退院時に在宅で療養する患者の機能、介護力を患者に評価し、リハビリテーションの観点から指導や説明を行つてることを示す項目です。直は、指導や説明を行つた患者数です。	*　※	*	0件
退院前訪問指導料	退院前訪問指導料は、退院前に在宅で療養する患者に、その病状や退院後における家庭の構造、介護力等を考慮し、在宅での療養に必要な指導を行つてることを示す項目です。直は、指導を行つた患者数です。	*　※	*	0件

## 全身管理の状況

	(項目の説明)	施設全 体	3階一般病 棟 急性期	4階回復期 病棟 回復期
中心静脈注射	中心静脈注射は、薬剤や栄養を長時間、安定的に供給する目的で、血液が多く流れ、速いスピードにある大いに静脈(上腕静脈や鎖骨下静脈)を用いて行われます。呼吸心拍監視	*　※	*	0件
呼吸心拍監視	呼吸心拍監視は、重複的な心拍動監視や呼吸機能監視をもつ患者に対し、その呼吸や心拍動の状況を持续的に監視する装置です。	*　※	*	0件
酸素吸入	酸素吸入は、呼吸器疾患などで酸素が欠乏した状態の患者に対し、高濃度の酸素を吸入させる装置です。僅にこの装置を行った患者数です。	*　※	*	0件
観血的動脈圧測定(1時間を超えた場合)	観血的動脈圧測定は、重症患者の血压監測のために、動脈に挿入する導管で持続的に血圧を測定する検査です。僅にこの装置を行った患者数です。	0件	0件	0件
ドレーン法、胸腔若しくは腹腔洗浄	ドレーン法は、手術後等の患者に対して、腹膜や腹腔部等に腫瘍細胞や血液などの余分な成分を吸引する方法で、胸腔内に挿入する装置です。胸腔・腹腔穿刺は、胸膜、腹膜に針を刺し、洗浄、注入および排液をする装置です。僅にこれら小切開を行った患者数です。	0件	0件	0件
人工呼吸(5時間を超えた場合)	人工呼吸(5時間を超えた場合)は、呼吸困難や呼吸停止の患者に対して、機械を使つて呼吸の補助をよこない、通気に行なった二酸化炭素を排出し、酸素の取り込みを促す装置です。僅に3時間以上継続的にこの装置を行った患者数です。	0件	0件	0件
人工腎臓、腹膜灌流	人工腎臓は、腎臓の代わりに人工腎臓は、透析機器(人工腎臓)を導入することによって、血液中の老廃物や余分な水分を取り除き血液を浄化する装置です。腹膜灌流(ふくまくひんりゅう)は、患者の腹膜(腹腔の膜)を覆う膜を介して腹腔中の余分な水分を吸収する装置です。僅にこの装置を行った患者数です。	0件	0件	0件
経管栄養カテーテル交換法	経管栄養カテーテル交換法は、口からの栄養摂取が難しく、胃や食道にかかる場合、細い状態の栄養器具(カテーテル)を挿入・置留する方法で、栄養液を注入する方法です。そのカテーテルを交換する装置です。僅にこの装置を行った患者数	0件	0件	0件

## リハビリテーションの実施状況

	(項目の解説)	施設全 体	3階一般病 棟	4階回復期 病棟
疾患別リハビリテーション料	疾患別リハビリテーション料は、患者の疾患や状態に応じたリハビリテーションを行った患者数です。	153件	65件	88件
心大血管疾患リハビリテーション料	心大血管疾患の患者に対する必要な機能の回復、疾患の再発予防等を図るために行うリハビリテーションです。値はリハビリテーションを行った患者数です。	0件	0件	0件
脳血管疾患等リハビリテーション料	脳血管疾患のリハビリテーション料は、脳梗塞、脳出血等の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	82件	25件	57件
疾用症候群リハビリテーション料	疾用症候群リハビリテーション料は、基本動作能力の回復、実用的な日常生活における諸活動の自己を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	* ※	*	0件
運動器リハビリテーション料	運動器リハビリテーションは、脊椎損傷による四肢麻痺、関節拘縮(かんしゆくごしゅく)、筋肉の動きが制限された状態等の患者に対して、必要な基本的動作能力等の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	64件	33件	31件
呼吸器リハビリテーション料	呼吸器リハビリテーションは、肺炎、肺腫瘍、慢性の呼吸器官等の患者に対し、症状に応じて必要な呼吸訓練等を行なうリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	* ※	*	0件
障害児(者)リハビリテーション料	障害児(者)リハビリテーション料は、身体機能の回復等の患者に対して、状態に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件	0件	0件
がん患者リハビリテーション料	がん患者リハビリテーション料は、がんの患者に対して、治療のための筋力低下等の回復を図るために行なうリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	* ※	*	0件
認知症患者リハビリテーション料	認知症患者リハビリテーション料は、重要な認知症患者に対し、必要な認知機能や社会生活機能の回復を図るために行なうリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件	0件	0件
早期リハビリテーション加算(リハビリテーション料)	早期リハビリテーション加算は、治療開始後の早期段階(治療開始日から30日以内)からリハビリテーションを行っている場合に付与する料金です。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	66件	40件	26件
初期加算(リハビリテーション料)	初期加算は、治療開始後の初期段階(治療開始日から14日以内)からリハビリテーションを行っている場合に付与する料金です。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	* ※	*	*
摂食機能療法	摂食機能療法は、嚥下機能の回復を図るために行なうリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	44件	15件	29件
リハビリテーション充実加算(回復期リハビリテーション病棟入院料)	リハビリテーション充実加算は、より多くのリハビリテーションを必要とする患者に対する料金です。値はこのリハビリテーションを必要とする入院している患者数です。	88件	0件	88件
休日リハビリテーション提供体制加算(回復期リハビリテーション病棟入院料)	休日リハビリテーション提供体制加算は、休日にも同様にリハビリテーションを提供できるような勤員配置等になされていない場合に付与する料金です。値はこのリハビリテーションの提供体制加算を行った患者数です。	0件	0件	0件
入院時訪問指導加算(リハビリテーション総合計画評価料)	入院時訪問指導加算は、患者や看護師等が、患者が退院後に生活する自宅や施設等を訪問し、その住環境や家族の状況等を踏まえたリハビリテーション実施計画を策定していることを示す料金です。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	* ※	0件	*

	(項目の解説)	施設全体	3周一般病棟 急性期	4周回復期 病棟 回復期
体制強化加算1又は2(回復期リハビリテーション病棟入院料)の届出の有無	体制強化加算は、患者の早期の機能回復や退院を促進するため、専門の医師や社会福祉士を配置していることを示す項目です。当院では、回復期リハビリテーション病棟入院料の届出を行っています。			体制強化加算1の届出あり
リハビリテーションを実施した患者の割合	リハビリテーションを実施した患者の割合は、入院患者のうち、疾患や状態に応じたリハビリテーションが実施された患者の割合です。		-	100.0%
平均リハビリテーション単位数(患者1日当たり)	平均リハビリテーション単位数は、上記の患者に対して行ったリハビリテーションの平均的な量を示す値です。20分実施した場合は20単位となります。		-	7.7単位
過去1年間の終退院患者数	過去1年間の終退院患者数等は、平成27年1月から平成28年6月までの6か月間に実施した患者の数です。日本生活機能評価に応じた患者の数です。		-	319人。
うち入院時の日常生活機能評価10点以上の患者数	うち退院時の日常生活機能評価が、入院時に比較して3点以上(※)改善した患者数		-	113人。
うち退院時の日常生活機能評価が、入院時に比較して3点以上(※)改善していない患者数	※回復期リハビリテーション病棟入院料1の場合には4点		-	75人。
回復期リハビリテーション病棟を退院した回復期リハビリテーションを要する状態の患者数【平成28年1月～6月30日の6か月間】	回復期リハビリテーション病棟を退院した回復期リハビリテーションを要する状態の患者の数と、実績指標等は、平成28年1月から6月までの6か月間に退院した回復期リハビリテーションの実績を対象とした患者数です。		-	-
うち実績指標の計算対象とした患者数【平成28年1月～6月30日の6か月間】	うち実績指標の計算対象とした患者数【平成28年1月～6月30日の6か月間】		-	-
実績指數【平成28年1月1日～6月30日の6か月間】	実績指數とは、回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーションの提供実績を評価する指標で、提供実績を有するほど、数値が高くなります。		-	-

## 長期療養患者の受け入れ状況

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復病棟 回復期
療養病棟入院基本料1.2(A~I)	療養病棟は、主として、長期にわたり医療を必要とする患者を入院させるための病棟です。値はこうした病棟に入院してしまった場合の料金です。	0件	0件	0件
褥瘡評価実施加算(療養病棟入院基本料、有床診療所療養病床入院基本料)	褥瘡評価実施加算は、褥瘡が特に生じやすい状態にある患者において、褥瘡の予防や処置の観点から必要な取組を行っていることを示すものです。褥瘡(ほづく)は、寝たきり状態になると、身体の血流が悪くなることで皮膚の表面で死んでしまう病気です。皮膚組織等が壊死する症状です。値はそのような状況にあらぬ患者数です。	0件	0件	0件
重度褥瘡処置	重度褥瘡処置は、褥瘡が特に生じやすい状態にある患者において、褥瘡の予防や処置の観点から必要な取組を行っていることを示すものです。褥瘡(ほづく)は、寝たきり状態になると、身体の血流が悪くなることで皮膚の表面で死んでしまう病気です。皮膚組織等が壊死する症状です。値はそのような状況にあらぬ患者数です。	0件	0件	0件
重症皮膚清掃管理加算	重症皮膚清掃管理加算は、重度の皮膚疾患に対して計画的、継続的なケアを行っていることを示します。皮膚清掃は、皮膚や粘膜が傷つけられた際に、糖尿病等の疾患による進行不全症(じゆうふせん)が発がゆなど、細胞が活性化しないマサニ	0件	0件	0件

## 重度の障害児等の受け入れ状況

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復病棟 回復期
難病等特別入院診療加算	難病等特別入院診療加算は、難病患者や透析症患者等の入院を受けている人の料金を示す項目です。値はその患者数	* ***	*	0件
特殊疾患入院施設管理加算	特殊疾患入院施設管理加算は、重度の障害者、難病患者等の入院を受けている人の料金を示す項目です。(全入院患者の約7割)を示す項目です。値はその患者数です。	0件	0件	0件
超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算	超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算は、出生時から小児期までに生じた障害によって現在も非常に活動制限がある児童(者)を対象としていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件	0件	0件
障害児(者)リハ(再掲)	障害児(者)リハ(再掲)は、脳性麻痺、発達障害等の患者に対して、状態に応じて行うリハビリーションです。値はこのリハビリ(リハビリテーション)の料金です。	0件	0件	0件
強度行動障害入院医療管理加算	強度行動障害入院医療管理加算は、知的障害や精神障害等であって、自傷、他人行為などで、危険な伴う行動を繰り返している患者の人の入院医療を行っていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件	0件	0件

## 医科専科の連携状況

	(項目の解説)	施設全体	3階一般病棟 急性期	4階回復病棟 回復期
歯科医師連携加算(栄養サポートチーム加算)	歯科医師連携加算は、入院中の患者の栄養状態の改善を図るため、歯科医師が室内スタッフと共に栄養サポートを行っていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件	0件	0件
周術期口腔機能管理後手術加算	周術期口腔機能管理後手術加算は、手術直前に口腔機能等に立ち、手術等を実施する1か月前の期間で歯科医師が周術期の口腔機能の管理を行っていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件	0件	0件
周術期口腔機能管理料(Ⅰ)	周術期口腔機能管理料(Ⅰ)は、がん等の手術を実施する患者等に、手術直前に口腔機能等に立ち、手術等を実施する1か月前の期間で歯科医師が周術期の口腔機能の管理を行い、管理内容文書により提供していることを示す項目です。値はその患者数です。	0件	0件	0件
周術期口腔機能管理料(Ⅲ)	周術期口腔機能管理料(Ⅲ)は、がん等の手術を実施する患者等に、手術直前に口腔機能等に立ち、手術等を実施する1か月前の期間で歯科医師が周術期の口腔機能の管理を行い、管理内容文書により提供していることを示す項目です。値はその患者数です。	0件	0件	0件

[TOPへ戻る](#)